

| | |
|---------|---|
| 氏名 | 上 平 裕 樹 |
| 授与した学位 | 博 士 |
| 専攻分野の名称 | 医 学 |
| 学位授与番号 | 博乙第3082号 |
| 学位授与の日付 | 平成9年3月25日 |
| 学位授与の要件 | 博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当) |
| 学位論文題目 | RT-PCR法を用いた Biological Response Modifiers によるサイトカインmRNA誘導の解析 |
| 論文審査委員 | 教授 中山 睿一 教授 清水 信義 教授 清水 憲二 |

学位論文内容の要旨

Biological response modifiers(BRM)によるサイトカイン誘導機序を解明する目的で、ヒト末梢血単核球をOK-432あるいはpolysaccharide K(PSK)で刺激し、サイトカインmRNAの発現をreverse transcription-polymerase chain reaction (RT-PCR)を用いて経時的に解析した。IL-1 β , IL-6, TNF- α mRNA は1時間以内に発現が増強した。IL-2, IFN- γ mRNA はOK-432では3時間後より誘導されたがPSKでは24時間まで誘導されなかった。サイトカイン蛋白はmRNA誘導より1~3時間のタイムラグをもって産生された。次にBRMに対する感受性の個体差を検討するため、臨床症例にOK-432を投与し、末梢血単核球におけるサイトカインmRNAの発現を解析した。皮内投与では多種のサイトカインmRNAが強く誘導される症例(high responder)が34例中4例あり、このような症例がBRM療法奏効例になるものと推察された。

論文審査結果の要旨

本研究は、ヒト末梢血単核球を biological response modifier(BRM)であるOK-432およびPSKにより刺激し、サイトカインの産生の誘導をRT-PCR法により検討したものである。この結果、IL-1 β , IL-6, TNF- α mRNA は1時間以内に発現増強を認めしたが、IL-2, IFN- γ mRNAの発現は遅れた。また、臨床症例にOK-432を皮内投与し、サイトカインmRNAの誘導を認めている。これらの結果は、悪性腫瘍のBRM療法における作用メカニズムについての重要な知見であり、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。